

平成 24 年度北海道教育大学特別支援教育プロジェクト

地域特性に応じた特別な教育的ニーズに関する
情報システムの構築
概要報告書

北海道教育大学

特別支援教育プロジェクト

平成 25 年 3 月

目次

プロジェクト・メンバー

はじめに

I. 本年度の概要

II. 事業成果の概要

1. ツールの開発・人材育成システムと教材の開発
2. 地域支援に関する実践
3. 調査研究と情報収集
4. 情報提供
 - (1) 講習会・フォーラム
 - (2) ほくとくネット

III. 実施した事業

1. 研修会等
2. 地域支援事業等

IV. 成果の公表

1. 学術論文等
2. シンポジウム
3. 学会発表等

プロジェクト担当

札幌校

青山 眞二・札幌校・教授

齊藤 真善・札幌校・准教授

千賀 愛・札幌校・准教授

三浦 哲・札幌校・教授

安井 友康・札幌校・教授

教職大学院

小野寺 基史・教職大学院・准教授

旭川校

安達 潤・旭川校・教授

大久保 賢一・旭川校・准教授

萩原 拓・旭川校・准教授

函館校

五十嵐 靖夫・函館校・教授

北村 博幸・函館校・准教授

細谷 一博・函館校・准教授

釧路校

小渕 隆司・釧路校・准教授

戸田 竜也・釧路校・講師

二宮 信一・釧路校・准教授

岩見沢校

小北 麻記子・岩見沢校・准教授

附属特別支援学校

ふじのめ学級

はじめに

本プロジェクトは、遠隔地の小規模校を含め、多様な環境で学ぶ特別な教育的ニーズを有する子どもの教育・支援にかかわる質の高い情報を提供するとともに、その情報・教材を双方向に活用して教育現場のサポートにつなげることができるような、発達支援・地域支援システムの検討を行う。さらに北海道教育大学が有する「少人数教育による専門的実践教育機能」「広域に展開する教育機能」を生かして、これらの特徴的な教育課題の解決に貢献する「主体的に課題に取り組む実践力のある学生」や「地域人材の育成」を図ることを目的とするものである。

そこで、本プロジェクトでは、遠隔地を包括したそれぞれの地域の特性に応じた、①就学から卒業後も含め生涯を見通した支援を可能とするための地域連携を通じた発達評価と個別の教育支援計画の作成に向けたツールの開発、②特別支援教育に関連した人材育成システムと教材の開発（学生及び現職教員）、③各キャンパスの機能を生かした地域支援、④地域の特性に応じた支援方法に関する調査研究と情報収集、⑤作成された教材や収集した地域情報の情報について、ネットワークを活用した遠隔地域を含めた情報提供システムの構築などを行うものである。

I. 本年度の概要

北海道教育大学中期計画の平成24年度の計画に沿って、平成22-23年度の計画において、構築してきた情報サイト「ほくとくネット」による情報集約（教材作成を含む）と情報配信を行うとともに、シンポジウム、講習会などを通して各地域での情報発信を行った。

今年度は、昨年度まで実施していた『「個別臨床・小集団臨床」における学生指導の進め方に関する研究』の成果と課題を踏まえ、臨床授業における学生指導を充実させるための方法について、まず初めに環境整備の観点から取り組みを行った。

また各地域の特別支援教育に関するニーズ調査、支援方法や支援技能向上に関する調査、他の地域における特別な教育的ニーズに対する教育方法等に関する情報収集などをおこなった。

さらに各地域において、スタッフや学生が参加した地域支援事業を実施し、地域の各支援団体などとの連携のものに、実際の支援方法に関するスキルアップや地域課題に関する情報収集などを行った。

Ⅱ．事業成果の概要

1．ツールの開発・人材育成システムと教材の開発

臨床授業における学生指導を充実させるための方法について、環境整備の観点から取組みを行うとともに、発達に関するアセスメント等の技能のスキルについての検討を行った。平成25年度に改訂が予定されているK-ABCⅡについては、臨床指導を行っている児童生徒の理解を深める上で欠かせないアセスメントであり、近隣の教育現場においても幅広く利用可能である。また、臨床授業の中で携帯型端末を用いた取組みを実践することで、その成果を地域の教育現場に広く発信することで、日々の教育実践に活用することが可能である。

また附属ふじのめ学級では、11月22日に研究大会を行い、「研究紀要＜第42集＞平成24年度全道教育研究大会（特別支援教育）大会要項～子どもに喜びのある自立を目指して～」をふじのめ学級実習の事後指導の一環として公表した。

2．地域支援に関する実践

地域支援については、「障害のある子どもときょうだいへのレクリエーション支援」として中標津町障害児サークル「どえらもんくらぶ」との共催で、デイキャンプ（障害児ときょうだい25名参加）、標津町障害児サークル「サロンときわ」との共催でのキャンプ（障害児ときょうだい23名参加）などを実施した。

またインクルーシブ子育て支援「キンダーぷらっつ」（札幌校臨床スペース小ホール・遊戯室にて実施、平成24年度は毎月12回、地域の親子、延べ約200名が参加）として、札幌校に設置された特別支援教育臨床スペース（小ホール・遊戯室）を活用した休日の遊びの支援を実施した。

スタッフ、学生の参加により実際の地域の教育・支援ニーズに対する支援を行うとともに支援における実践力の向上や大学機能の活用に関する基礎的な情報の収集を行うことができた。

3．調査研究と情報収集

調査研究として「特別な支援を要する児童・生徒の乳幼児期の支援ニーズに関するアンケート調査(2012～2013)」を実施し、根室管内一市四町村の特別支援学級在籍の児童生徒を対象とした調査研究、重度障害者の旅行の支援に関する

実地調査などを行った。

また附属ふじのめ学級では、授業研究及び教材研究のため鹿児島大学教育学部附属特別支援学校への視察調査を行い（平成 25 年 1 月 31 日～2 月 3 日、訪問者：山口 翔、金澤恵美）公開研究会に参加、小学部、中学部、高等部の授業を参観した。授業検討会を通して授業づくりを行ってきた結果、子どもたちにとっての学びの姿を教職員が共通してとらえ指導することができ、実際の授業の中で子どもたちの意欲的に学ぶ姿につながってきていることが分かった。

4. 情報提供

(1)講習会・フォーラム

各地域における特別な教育的ニーズに対するアセスメントや支援方法に関する講習会やフォーラムを実施した。

北海道教育大学特別支援教育プロジェクト冬期研修会として「ADOS に基づく自閉症スペクトラム障害の対人コミュニケーションの見方」（北海道教育大学札幌駅前サテライト・キャンパス）、北海道教育大学特別支援教育プロジェクト夏期研修会「障害者福祉サービスの最新情報に関する学習会」（北海道教育大学札幌駅前サテライト・キャンパス）現職教員支援・若手特別支援学級担当者を対象としたサポートセミナー（釧路）、現職教員支援講演会、「特別支援教育における授業づくりと教材・教具」釧路、「最新の心理・教育アセスメント（K-ABC II・WISC-IV）に関する研修会」における事例発表（サンリフレ函館）等を行った。

また旭川地域のプロジェクトでは、北海道教育大学特別支援教育プロジェクトと旭川市子ども発達支援会議、旭川民間保育所相互育成会、北海道私立幼稚園協会旭川支部、旭川地域児童ディサービス等連絡協議会、北海道特別支援教育学会道北支部、上川管内特別支援教育ネットワークたいせつネットの6団体が合同主催で「子育て支援から発達支援を考えるフォーラム」を開催した。

本フォーラムの開催趣旨は「育ちに難しさのある子どもの支援を就学前から学齢期につないでいくためには、子どもとその子どもが育つ環境である保護者を含む形で支援を考えていくべき」というものであり、この観点は、厚生労働省の「子ども・子育て新システム」および文部科学省のこれからのインクルーシブ教育編の転換に関わる「早期からの教育相談の充実」とも連動していると

いう認識に基づくものである。フォーラムでは基調講演として、上智大学の大塚晃教授に「発達的气になる子どもと親を支える子育て支援からの地域生活支援システムの視点から」というタイトルでの講演をお願いし、また北海道保健福祉部福祉局地域担当局長の内海敏江氏には平成 24 年度に北海道が実施した発達障がい児・者支援のアンケート調査結果速報、さらに旭川地域の子育て支援から発達支援に関わる現場実践者をパネラーに迎えたシンポジウムを実施した。

本フォーラムには 244 名の参加者があり、困難性を抱えた子どもたちを支えていくために今後求められる地域支援システムの方向性について共有することができた。平成 24 年度のフォーラムは、社会福祉サイドからの発信が軸となっていたが、平成 25 年度にも本フォーラムを継続し、今度は教育サイドからの発信を軸として進めていくという方向性が描かれている。

(2)ほくとくネット

構築した情報サイト「ほくとくネット」のアクセス数が、2 万 6 千件（平成 24 年度中のアクセスは、約 1 万 9 千件）を超えるなど、特別支援教育に関する教材や情報提供を行うとともに、学会を始め、フォーラムや研修会、学生の実践力向上に結びつくプロジェクト主催の地域支援活動などを実施し広く情報提供を行った。

ほくとくネットで提供している情報に関しては、特別支援教育分野での「個別の教育支援計画作成」になどの研修を行う際に利用可能である。特に本年度も引き続き開発を行った「絵カード」は、学級運営のさまざまな状況（衛生指導、行事説明等）で教員と児童とのコミュニケーションを支援することができる。

Ⅲ. 実施した事業

1. 研修会等

- ・北海道教育大学特別支援教育プロジェクト冬期研修会
ADOS に基づく自閉症スペクトラム障害の対人コミュニケーションの見方、
開催年月日：2012 年 12 月 16 日（日）
場所：北海道教育大学札幌駅前サテライト・キャンパス
- ・北海道教育大学特別支援教育プロジェクト夏期研修会
障害者福祉サービスの最新情報に関する学習会
日時:平成24年8月6日（月）10時～16時30分
場所:北海道教育大学札幌駅前サテライト
- ・現職教員支援・若手特別支援学級担当者を対象としたサポートセミナー
(2012.8)、講義及び演習を実施。釧路・根室・十勝管内より、40 名の教員が
参加。(釧路)
- ・現職教員支援講演会、「特別支援教育における授業づくりと教材・教具」講師：
村上公也氏、(2013.2・釧路)
- ・「最新の心理・教育アセスメント（K-ABCⅡ・WISC-Ⅳ）に関する研修会」に
おける事例発表
日時：平成25年2月23日（土）10:00～15:00
会場：サンリフレ函館
発表題目：K-ABCⅡとWISC-Ⅳに基づく社会科の指導
発表者：加藤順也（北海道教育大学教育学研究科）
- ・子育て支援から発達支援を考えるフォーラム
平成25年1月26日（土）
旭川市大雪クリスタルホール

2. 地域支援事業等

- ・「障害のある子どもときょうだいへのレクリエーション支援」中標津町障害児サークル「どえらもんくらぶ」との共催、デイキャンプ（障害児ときょうだい 25 名参加）、
- ・標津町障害児サークル「サロンときわ」との共催でのキャンプ（障害児ときょうだい 23 名参加）
- ・インクルーシブ子育て支援「キンダーぷらつつ」
平成 24 年度は毎月 12 回、札幌校臨床スペース小ホール・遊戯室にて実施

IV. 成果の公表

1. 学術論文等

安達潤、特別支援教育の現在とスクールカウンセラーの役割こころの科学 163、71-74、2012

安達潤、PARS：評定の視点と活用の留意点、児童青年精神医学とその近接領域 53(3)、299-305、2012

三浦哲・萩原拓・安達潤・五十嵐靖夫・二宮信一、北海道教育大学特別支援教育プロジェクト報告「特別な教育的ニーズのある子ども達への教育支援・教育方法の開発」、北海道特別支援教育研究、6 巻 1 号、2012、89-92（シンポジウム報告）

二宮信一・大友浩美・手代木了、障害のある子どもと地域をつなぐ教師の役割—津別町における特別支援学級の実践から考えるシンクルーシブ教育、へき地教育研究、第 67 号、21-30、2012

小渕隆司、自閉症スペクトラム児の早期発見の可能性と早期からの支援、発達障害研究、34 巻 4 号、2013

戸田竜也、障害児者のきょうだいの生涯発達とその支援 障害者問題研究 40 巻 3 号、10-17、2012.11

戸田竜也・村上徹・服部健治・小渕隆司、障害児のきょうだい支援の実践—中標津町・標津町の障害児サークルと北海道教育大学釧路校との共同の取り組み、へき地教育研究、68

戸田竜也、きょうだいの願いを理解するために—こころのストーリーに着目することの大切さ、みんなのねがい、556、33-35、2013

書籍

安達潤、第 2 章 早期スクリーニングの実際 I スクリーニングのツール 3. PARS、発達障害 早めの気づきとその対応（編著：市川宏伸、内山登紀夫）（中外医学社）、2012

2. シンポジウム

北海道教育大学特別支援教育プロジェクトの取り組みと『ほくとくネット』、北海道特別支援教育学会、2012/7/21-22、北海道教育大学函館校、300 人

小湊隆司 日本特殊教育学会第49回大会 自主シンポジウム 自閉症スペクトラム児における障害の診断・告知とその後の支援、指定討論者、2012/9

戸田竜也 第39回北海道情緒障害教育研究会札幌大会 シンポジウム 連続性のある多様な学びの場を目指して～家庭・地域・学校・行政の連携の状況と課題一、シンポジスト、2012/8

3. 学会発表等

Tomoyasu Yasui, Ai Senga, Factors Affecting Inclusive Physical Activity in Recreation: A Qualitative Case Study of “Kinder Platz”, Hokkaido University of Education Sapporo Pacific-Rim Conference on Education, 2012/7/7-8, 北海道教育大学

Ai Senga, A Program for Improvement of Special Education Teacher Preparation in the Hokkaido University of Education Sapporo Campus, Hokkaido University of Education Sapporo Pacific-Rim Conference on Education, 2012/7/7-8, 北海道教育大学

Taku Hagiwara, “Hokutoku-Net” : An Intercampus Project for Facilitating Interaction among Special Education Practitioners in Hokkaido, Japan, Hokkaido University of Education Asahikawa, Pacific-Rim Conference on Education, 2012/7/7-8, 北海道教育大学

Tomoyasu YASUI & Ai Senga, Factors Affecting Inclusive Physical Activity in Recreation of "Kinder Platz" : Through a three-dimensional acceleration measuring apparatus, The 12th Asian Society of Adapted Physical Education and Exercise (ASAPE 2012), Hon Kong, China (The Hong Kong Institute of Education), 2012/08 2012/August/10

小北麻記子、ヒューマンインタフェースシンポジウム 2012、2012 年 9 月、九州大学（福岡）、「精神的苦痛緩和に着目した義手デザイン」

小北麻記子、計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2012、2012 年 11 月、ウィルあいち（愛知）、「便利さを基準としない義手デザイン」

小北麻記子、「こころの痛み軽減のための義手デザイン」計測と制御 第 51 巻 第 8 号、PP.738-741、2012 年 8 月

北海道教育大学 特別支援教育プロジェクト「ほくとくネット」

URL : <http://hokutoku.net>

平成 24 年度北海道教育大学特別支援教育プロジェクト報告

北海道教育大学特別支援教育プロジェクト

事務局

〒002-8502

北海道教育大学

札幌校特別支援教育（安井研究室）

〒002-8502 札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目

電話/fax 011-778-0433

発行 平成 25 年 3 月 31 日